

平成29年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493400194	事業の開始年月日	平成21年10月1日
		指定年月日	平成21年10月1日
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター横浜瀬谷		
所在地	(〒246-0015) 神奈川県横浜市瀬谷区本郷3-36-5		
18サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員 宿泊定員	名 名
自己評価作成日	平成29年12月25日	評価結果 市町村受理日	平成30年5月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigo/w10/wpJDetails.aspx?JGN0=ST1493400194&SVCD=320&THN0=14100
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>入居者、ご家族、職員が地域との関わりをもちながら、それぞれ心地良く過ごせる空間を目指しています。</p> <p>敷地内に畑があり、ボランティアさんの協力により入居者様と一緒に四季の野菜の成長、収穫、味を楽しむことができます。</p> <p>また、毎週月曜日はボランティアによるアロマ体操、第2、第4火曜日にはハーモニカ演奏をおこなっています。</p> <p>季節の行事をおこなっており、近隣の小学校より生徒さんが遊びに来てくれます。</p>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成30年1月26日	評価機関 評価決定日	平成30年4月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】</p> <p>この事業所は、相鉄線瀬谷駅から徒歩で10分ほどの、川沿いに位置している。法人は教育事業を軸に訪問介護や介護施設などを全国展開している。法人変更等があったため事業開始が平成21年となっているが、このグループホームの運営自体は開業してから15年経過しており、開設当初からの入居者も元気に暮らしている。敷地が広く駐車場や畑などを持ち、ボランティアとの交流も多い。</p> <p>【ボランティアによる支援】</p> <p>様々なボランティアが来訪し、利用者の生活を豊かに彩っている。広い畑はボランティアグループが世話をしており、年間を通じ自由に活動している。大根、蕪、白菜、春菊、しし唐、オクラ、シソ、ナスなどの野菜に加え夏ミカン、金柑、ブドウなどの果樹も収穫され食卓を賑わせている。ハーモニカやオカリナの演奏ボランティアや、図書館からは読み聞かせのボランティアが派遣されている。地域の人々との大切な交流の場となっている。</p> <p>【利用者家族との連携】</p> <p>居室担当を決め、清掃や衣替えなどを手伝っている。利用者家族とのコミュニケーションを大切に考えている。毎月個別の「あじさい新聞」を発行し、報告書と共に利用者の近況を写真入りで伝えている。年に2回ニチイ祭り、クリスマス会に家族を招待しているほか、「家族会」を開催し、家族間の交流を図っている。往診時に家族の立ち合いをお願いするなど、家族との関わりもそれぞれの利用者の状況や希望に対応している。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ニチイケアセンター横浜瀬谷
ユニット名	あじさい

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念また企業としての社是、経営理念を事務所に掲示し共有している。朝礼にて周知し実践している。	毎朝申し送り時に社是を唱和している。事業所の理念を居間や事務所に掲示している。長く勤務している職員は理念を理解し日々のケアに当たっているが、理念について話し合う機会は設けていない。	昨年管理者が交代しました。理念はケアの根幹となるものですので、この機会に一度職員と理念について話し合いの機会を持つことを期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は自治会に加入している。自治会の清掃、子供会の廃品回収への協力、近隣の小学校の生徒さん達がホームでの行事に参加して下さり、交流している。	自治会に加入し、敬老福祉大会や公園掃除などに利用者と共に参加している。近隣小学校からは敬老会などの行事に訪問があり、利用者と交流している。ニチイ祭りには近所や地域の事業所を招待している。ボランティアの会のメンバーが交代で畑の手入れに来てくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に認知症の勉強会を開いている。また、近隣の小学校で福祉体験学習を開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催している。GHの状況や今後の運営について報告させていただき、ご意見を伺いご協力頂いている。	隔月に自治会会長、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者家族、オーナーなどの参加を得て会議を開催している。事業報告や行事の報告などしている。最近では隣接河川の洪水について、地域の方とも話し合いを重ね、自治会の避難訓練に参加することを決めた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にご参加頂けるよう、お声を掛けさせて頂いているが、予定が合わず取り組めていない。瀬谷区GH連絡協議会に参加しており、区役所の方と交流しております。	昨年の管理者交代や実地指導で、区との連携を強めた。ハザードマップに掲載されている区域なので、大雨の際などは行政から早めに連絡が入る。地域の見守りも頻回にしてもらっている。市の開催する医療連携の研修に参加している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設け、都度カンファレンスにて身体拘束にあたらぬかチェックを行っている。一年に一度身体拘束対策研修を行うようにしている。しかし、玄関は1日中解錠しているが1階2階ユニット入り口は現在施錠している。外に出たい要望があればいつでも外に出られるように支援している。	身体拘束が必要な利用者がいるときは「身体拘束防止委員会」を設置する（現在委員会の設置はない）。毎年研修を行い、言葉や薬についての拘束防止に努めている。日中玄関の鍵は開けているがユニット間は施錠している。出かけたいた素振りの利用者がいれば職員が付き添い散歩に行く。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症ケアに関する勉強会を開き、その声掛けや態度が知らずに虐待になっていないか学んでいる。チェックリストを使いスタッフに周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資格等取得にむけて職員が個々で学んでいる。運営推進会議委員に行政書士が参加しており、成年後見制度について学べる環境にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定の際には契約書、重要事項説明書に基づいて対面にて説明させていただき、御不安や疑問の残らないよう対応させていただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会にて御意見、御要望を伺っている。またご面会や電話でお話させていただき、御要望や御意見を頂いている。苦情窓口を設けており、契約時に説明している。	年に2回ニチイ祭りやクリスマス会の時に家族交流会を行っている。法人で毎年アンケートを家族全員に実施している。日頃からコミュニケーションが取れるよう、毎月「あじさい新聞」で利用者の写真を添え近況を報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り、全体会議、ユニット会議にて職員の意見や提案を聞き取り反映している。また、職員希望者にはいつでも管理者と個人面談できる機会を設けてあることを伝えている。	毎月全体会議とユニット会議が開かれている。ユニット会議では主にカンファレンスを行なう。全体会議では研修や運営に関することを話している。職員の意見をもとにトイレの手すりを設置した。現在入浴用のキャリアチェアへの購入について話している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談やキャリアアップ、外部研修等の紹介を行い、自己啓発や資格取得講座の紹介、やりがいをもち勤務できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報提供や社内研修の参加を促している。全体会議にて認知症ケア研修を行い、認知症についての見識を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	瀬谷区地域密着型サービス事業所連絡会に所属しており、交流する機会をつくっている。また、区が主催する医療連携などの勉強会に参加しサービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを基に生活暦を把握し担当スタッフが主になり関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを行う際に、ご家族から困っていること、不安なことがあるか話を伺い、出来る限り対応できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントにてご本人、ご家族の話を傾聴し、医療、スタッフ、福祉用具と連携していき必要な支援を見極めていく。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場である事を踏まえ、それぞれの生活暦、価値観に応じスタッフが入居者同士の関係を築ける様支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の生活の中で無理なく協力頂ける範囲を見極め、共に本人を支えて頂ける様、関係を築いていっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族・ご友人が来訪された際はお茶をお出しし、居心地の良い雰囲気を作るように努めています。	同級生や友人の来訪が定期的にある。好みの新聞購読の継続を支援している。ハーモニカのボランティアが来た時は馴染みの唱歌を歌い、昔話に目が輝く。生まれ育った故郷の話を職員が聞き出す努力をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを通し、お客様同士の会話の掛け橋になることでお客様それぞれが居心地よく過ごせるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族サービス利用（契約）が終了の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も御家族が来訪し馴染みの入居者様と歓談頂ける関係継続に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の要望を確認し、日頃したいことが出来るように支援しています。意思の疎通が難しい方は表情、仕草などから判断しており、無理強いをしないようにしております。	入所時は自宅に赴き生活歴などを聞いている。入所後は散歩や入浴時など利用者とマンツーマンになる機会によく聞くようにしている。職員間の情報共有はカンファレンスで行っている。利用者のしぐさや目の動きなども見逃さないようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の希望、ご家族から趣味、嗜好を確認し、また、馴染みの物を使用して頂くようにし、できるかぎり家で生活していた時と変わらないようにホームで生活できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人に必要な能力を見極め、能力に合わせた生活を送れるようにレクレーションをいくつかご用意して様子を見ています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意見を必ず確認し、モニタリングしている。その上で職員、提携医、マッサージ師とも相談を行い、介護計画を作成している。	毎月の会議でカンファレンスを行ない職員の意見を聞いている。来所時に家族の意見を聞き、医師や看護師からの報告を取り入れてケアプランを作成している。原則6か月ごと、それ以外でも急変時には見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	お客様別に担当者を設け毎月状況報告書を作成閲覧し、各スタッフがお客様に目が向くようにしており、状況報告書からスタッフ間で意思統一し、介護計画作成に役立てている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様の好物など買い置きしておき、本人が食べたい時に提供できるようにしている。外に出たい時など散歩の支援を行なえるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内にある大きな畑を入居者と共に数名の地元ボランティアさんが管理して下さっている。又運営推進会議には、自治会の方にも数名参加して頂いており、自治会の催し物の案内を受けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の意向を大切に、必要時には担当医が御家族にインフォームドコンセントを実施している。例えば薬による治療を望まない方には代替となる民間療法を提携医と相談しながら行っている。	従前のかかりつけ医に通う利用者は1名いる。その他の方は希望により協力医院から内科や専門医の往診を利用しており、その際家族が立会うこともある。毎週訪問看護師が来ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問された際は必ずお客様の現在の状態を伝え、お変わりある方を重点的に診て頂いている。受診時以外にも電話による指示、体調不良時の訪問診断等密接な支援がされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医の協力を得、サマリーや日々のバイタル情報などを提供している、又入退院時の医療機関とのカンファレンスも御家族を交え必要時開催している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの経験はないが、必要に応じ「重度化した場合における対応に係る指針」に沿い、ご家族医療機関と話し合いを行っていく予定です。	入居前に「重度化した場合における対応に係る指針」でターミナル期の対応についても説明している。看取りを行った事例はないが、今後に備えて覚悟をもってケアに当たっている。医師および家族とよく話し合っ看取りを行う予定である。	利用者が高齢化、重度化している状況があります。看取りに向けて職員に対する研修の強化を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本社のマニュアルに沿い緊急時や利用者の急変時に対応出来るよう定期的に手順の確認を全体会議時に職員に行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練その内1回は夜間を想定した訓練を行っている。備蓄も蓄えており、緊急時は町内会の協力を得られるように話を通している。	年に2回訓練を行っている。今年度は6月に夜間想定火災の訓練、11月には消防署立会いで風水害を想定しての避難訓練を行った。水害時に1階の利用者を2階に誘導する訓練を行い、重度の方の誘導方法や時間などを確認した。水害時避難計画を区に提出しており、今後、現実に即したものに変更を予定している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は声掛けを行う際に穏やかな口調になるように抑揚にも気を配っている。排泄介助を行う際はご本人が不快にならないように配慮するようにしている。	職員は毎年法人の個人情報保護のテストを受けている。接遇や認知症の研修も毎年行っており、不快な言葉遣いには現場で注意するように指導している。トイレにカーテンをつけて、中が見えないように配慮している。記録等は利用者名をそのまま記載せず、アルファベットに置き換えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日など行事の時は何を召し上がりたいかお客様に選んで頂いている。発語の難しい方は選択式にして思いを引き出しやすいようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人が望まないことは無理強いないようにしています。ただ、レクレーション、入浴など参加されるように声掛けを様々に工夫しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回美容師が訪問し、カット、カラー、お顔そりを行っている。また、ご本人の嗜好に合わせた服装を心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に嚥下体操を行い、唾液を促進しより美味しく感じられるようにしている。出来る方にはテーブル拭きや下膳、洗い物も行って頂いている。	業者から毎日、献立と食材が配達され、職員が調理している。皮むきや食器拭きなどできることを利用者とともにやっている。畑や土手でとれる旬の野菜や果物、時には土筆などが食卓に上ることもある。職員は介助しながら見守りを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を有効に使い食べる量や水分量を把握し、不足分は、一人ひとりの状態や嗜好に応じた飲食を支援している。たんぱく質の足りない方には朝・夕に卵を付けるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの他に、月4回の訪問歯科での口腔状態のチェックを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お客様の排泄パターンを職員は把握し、時間帯に合わせてトイレへ誘導している。また、表情や仕草から気持ちを読み取り、トイレへ誘導するようにしてる。	各ユニットに3か所のトイレがある。うち1か所は脱衣所側にもドアがあり、排泄に失敗した時はそのまま浴室に誘導できる。排泄チェック表があり、定時誘導している。立位が取れることでトイレでの排泄が継続できるよう、リハビリに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には牛乳など乳製品を提供し、散歩に沢山出掛けている。それでも排便の無い方には提携医、訪問看護師の指示を受け服薬支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の希望があれば毎日入れるように支援しています。入浴の拒否がある方も時間帯を変えて声掛けすることで入浴されることもあります。また、菖蒲湯やゆず湯など季節に合わせた入浴も楽しんで頂いております。	週に2回以上の入浴を実施している。希望すれば毎日でも入浴可能だが、現在希望する利用者はいない。利用者は好みの入浴剤や、ゆず湯、菖蒲湯などの行事湯を楽しんでいる。入浴を好まない利用者には馴染みの職員が対応したり、時間を空けて誘導したりしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お部屋でいつでも休むことができるようにドアは開放しており、寝具も整えてあります。身体の状況に合わせて昼寝の時間も用意しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報表を作り、いつでもスタッフが確認できるようにしている。服薬支援を行う際は必ず職員2人でチェックを行いミスを防ぐように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみなどの日常生活上の家事を行って頂いている。身体の状況によりできない方には、貼り絵などの展示品作りを職員と一緒にしている。他に体操、歌唱に力を入れています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に行けるように支援を行っております。地域のボランティアに協力して頂き、畑の種まきや収穫を手伝って頂いております。草取りなど職員と協力して行なう事もあります。	近隣に大小の公園や河川敷があり散歩には事欠かない。車いすの方も職員が付き添い天気の良い日には散歩に出かける。ウッドデッキや畑などで日光浴や洗濯物干しを手伝う利用者もいる。買い物など個別で遠くに行く時はタクシーを利用する。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは事務所で預かっておりますが、今後は一人ひとりの希望や力に応じて工夫して参りたいと思います。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族が来訪された際にお渡しできるようにお手紙を書くことの支援を行っています。希望されるお客様には電話で会話をできるように支援しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、廊下にお客様が作成した季節の展示品を飾っている。トイレにはわかりやすいように表示している。適正な室温を保つ為に職員で管理をおこなっている。	駐車場や前の畑など敷地が広く日当たりが良い。ボランティアの会が畑の世話をすることで、利用者は季節ごとに収穫を楽しんでいる。居間は大きな窓があり室内は明るく暖かい。職員は時間によりソファの位置を変えるなど、過ごしやすいよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	普段はお客様が好きなところで過ごせるように支援しております。テレビを観たいお客様は近くまで誘導し、昼寝をしたいお客様は居室まで誘導しております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や思い出の品など居室にはできるだけ馴染みの物を配置して頂いています。他に足りないものや欲しいものはご家族と相談し、取り入れるようにしております。	照明器具やエアコン、カーテンなど備え付けているが、ベッドや机、いすなど使い慣れた物を家族と相談し持ち込んでいる。利用者は家族写真やぬいぐるみ、趣味の品々を飾り、居心地良く暮らせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒の無いように居室内の環境整備に努めています。しかしそれは行動を制限するのではなく支援できるように工夫しています。		

事業所名	ニチイケアセンター横浜瀬谷
ユニット名	ひまわり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念また企業としての社是、経営理念を事務所に掲示し共有している。朝礼にて周知し実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は自治会に加入している。自治会の清掃、子供会の廃品回収への協力、近隣の小学校の生徒さん達がホームでの行事に参加して下さり、交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に認知症の勉強会を開いている。また、近隣の小学校で福祉体験学習を開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催している。GHの状況や今後の運営について報告させていただき、ご意見を伺いご協力頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にご参加頂けるよう、お声を掛けさせて頂いているが、予定が合わず取り組めていない。瀬谷区GH連絡協議会に参加しており、区役所の方と交流しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設け、都度カンファレンスにて身体拘束にあたらぬかチェックを行っている。一年に一度身体拘束対策研修を行うようにしている。しかし、玄関は1日中解錠しているが1階2階ユニット入り口は現在施錠している。外に出たい要望があればいつでも外に出られるように支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見 overs されることのないよう注意を払い、防止に努めている	認知症ケアに関する勉強会を開き、その声掛けや態度が知らずに虐待になっていないか学んでいる。チェックリストを使いスタッフに周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資格等取得にむけて職員が個々で学んでいる。運営推進会議委員に行政書士が参加しており、成年後見制度について学べる環境にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定の際には契約書、重要事項説明書に基づいて対面にて説明させていただき、御不安や疑問の残らないよう対応させていただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会にて御意見、御要望を伺っている。またご面会や電話でお話させていただき、御要望や御意見を頂いている。苦情窓口を設けており、契約時に説明している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り、全体会議、ユニット会議にて職員の意見や提案を聞き取り反映している。また、職員希望者にはいつでも管理者と個人面談できる機会を設けていることを伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談やキャリアアップ、外部研修等の紹介を行い、自己啓発や資格取得講座の紹介、やりがいをもち勤務できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報提供や社内研修の参加を促している。全体会議にて認知症ケア研修を行い、認知症についての見識を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	瀬谷区地域密着型サービス事業所連絡会に所属しており、交流する機会をつくっている。平成28年度は役員をおこなっている。また、区が開催する医療連携などの勉強会に参加しサービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを基に生活暦を把握し担当スタッフが主になり関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを行う際に、ご家族から困っていること、不安なことがあるか話を伺い、出来る限り対応できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントにてご本人、ご家族の話を傾聴し、医療、スタッフ、福祉用具と連携していき必要な支援を見極めていく。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場である事を踏まえ、それぞれの生活暦、価値観に応じスタッフが入居者同士の関係を築ける様支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の生活の中で無理なく協力頂ける範囲を見極め、共に本人を支えて頂ける様、関係を築いていっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族・ご友人が来訪された際にはお茶をお出しし、家に遊びに来たように居心地の良い雰囲気を作るように努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを通し、お客様同士の会話の掛け橋になることでお客様それぞれが居心地よく過ごせるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族サービス利用（契約）が終了の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も御家族が来訪し馴染みの入居者様と歓談頂ける関係継続に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	帰宅願望のあるお客様や不安のある方はこちらから傾聴を行い、意向を聴きだすようにしている。困難な場合は出来るだけ意向に沿えるようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の希望、ご家族から趣味、嗜好を確認し、また、馴染みの物を使用して頂くようにし、できるかぎり家で生活していた時と変わらないようにホームで生活できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人に必要な能力を見極め、それに合わせたレクレーションを優先して行っております。歌唱レクが苦手な方には塗り絵や脳トレーニングなどを行ってま		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意見を必ず確認し、モニタリングしている。その上で提携医、マッサージ師とも相談を行い、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	お客様別に担当者を設け毎月状況報告書を作成閲覧し、各スタッフがお客様に目が向くようにしており、状況報告書からスタッフ間で意思統一し、介護計画作成に役立てている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様が不安な気持ちになられた時は、散歩に出掛けたり、喫茶店まで職員と一緒にコーヒーを楽しむなどして支援しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内にある大きな畑を入居者と共に数名の地元ボランティアさんが管理して下さっている。又運営推進会議には、自治会の方にも数名参加して頂いており、自治会の催し物の案内を受けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の意向を大切にし、必要時には担当医が御家族にインフォームドコンセントを実施している。例えば薬による治療を望まない方には代替となる民間療法を提携医と相談しながら行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問された際は必ずお客様の現在の状態を伝え、お変わりある方を重点的に診て頂いている。受診時以外にも電話による指示、体調不良時の訪問診断等密接な支援がされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医の協力を得、サマリーや日々のバイタル情報などを提供している、又入退院時の医療機関とのカンファレンスも御家族を交え必要時開催している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの経験はないが、必要に応じ「重度化した場合における対応に係る指針」に沿い、ご家族医療機関と話し合いを行っていく予定です。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本社のマニュアルに沿い緊急時や利用者の急変時に対応出来るよう定期的に手順の確認を全体会議時に職員に行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練その内1回は夜間を想定した訓練を行っている。備蓄も蓄えており、緊急時は町内会の協力を得られるように話を通している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は丁寧な言葉かけを心がけています。否定はせずにできるだけ思いに沿えるような言葉かけを行えるようにしております。排泄介助を行う際はご本人が不快にならないように配慮するようにしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	欲しい食べ物や品物がないか聴き取りをおこない、ご家族に相談し購入の支援をしています。買い置きを行い、いつでも食べられるようにしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	ご本人が望まないことは無理強いしないようにしています。ただ、レクリエーション、入浴など参加されるように声掛けを様々な工夫しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回美容師が訪問し、カット、カラー、お顔そりを行っている。また、ご本人の嗜好に合わせた服装を心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に嚥下体操を行い、唾液を促進しより美味しく感じられるようにしている。出来る方にはテーブル拭きや下膳、洗い物も行って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分量をこまめに確認し、不足気味の際は以前の習慣で飲んでいたノンアルコールビールやゼリーなど提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの他に、月4回の訪問歯科での口腔状態のチェックを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お客様の排泄間隔のデータを取り、データに合わせてトイレへ通うように言葉かけをすることで排泄の失敗を減らすようにしております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には牛乳など乳製品を提供し、散歩に沢山出抱けている。それでも排便の無い方には提携医、訪問看護師の指示を受け服薬支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の希望があれば毎日入れるように支援しています。入浴の拒否がある方も時間帯を変えて声掛けすることで入浴されることもあります。また、菖蒲湯やゆず湯など季節に合わせた入浴も楽しんで頂いております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お部屋でいつでも休むことができるようにドアは開放しており、寝具も整えてあります。身体状況に合わせて昼寝の時間も用意しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報表を作り、いつでもスタッフが確認できるようにしている。服薬支援を行う際は必ず職員2人でチェックを行いミスを防ぐように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ほうき掛けなどの掃除を手伝って頂いている。身体状況によりできない方には、貼り絵などの展示品作りを職員と一緒にやっている。他に体操、工作に力を入れております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に行けるように支援を行っております。帰宅願望のあるかたには瀬谷駅の喫茶店まで職員と外出し、気分転換しております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは事務所で預かっておりますが、今後は一人ひとりの希望や力に応じて工夫して参りたいと思います。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや電話を掛けたいとの希望があれば職員が支援を行っております。手紙のやり取りの支援も行っております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、廊下にお客様が作成した季節の展示品を飾っています。リビングは暖色を使うように工夫しており、暖かい雰囲気を作り出すようにしております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時などお客様の相性を考慮して席の配置を決めておりますが、普段は自由に思い思いのところで過ごせるように支援しております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や思い出の品など居室にはできるだけ馴染みの物を配置して頂いています。他に足りないものや欲しいものはご家族と相談し、取り入れるようにしております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒の無いように居室内の環境整備に努めています。しかしそれは行動を制限するのではなく支援できるように工夫しています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

ニチイケアセンター横浜瀬谷

作成日

H30.5.2

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束防止委員会の設置がない	各階に委員を 設置する。	ユニット会議で 委員を任命し、 会議で拘束についての 知識を深める。	1ヶ月程度
2	33	看取りについての 知識が少ない	職員研修で 勉強する。	全体会議の時に 少シかつ、時間をとり 知識を深める。	6ヶ月程度
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。